

メッセージアウトライン

ローマ12：3～8「キリストのからだ」

[3]「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおののけに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい」

「自分に与えられた恵み」とは、ここではキリストの権威ある使徒として立てられた恵みのこと。その権威をもってパウロは「あなたがたひとりひとりに言います」と強く勧める。その勧めの内容は、①思うべき限度を越えて思い上がってはいけないという、高慢の禁止。②神がおののけに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさいという謙遜の勧め。

[4-5]「一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きをしないのと同じように、大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです」

教会はここで、からだにたとえられ、信仰者ひとりひとりはそのからだを構成する器官とされている。キリストはそのかしらである。→コロサイ1:18

人間のからだは脳によってコントロールされている。キリストのからだである教会、それを構成するひとりひとりも、キリストにあって互いに助け合い、仕え合わなければならない。

[6-8]ここで言われている「賜物」とは信じた時に神から与えられた、それぞれに固有のすぐれた霊的才能、能力のこと。神はすべての信仰者にさまざまな異なった賜物を与え、互いにそれらを活用して仕え合い、助け合っていくことを願っておられる。ここには7つの賜物があげられているが、それですべてではないであろう。

①預言—これは将来起こる出来事を予告するという意味もあるが、ここでは聖霊によって神のみこころを示され、その真理を人々に示す能力のこと。神のことばである聖書が完結している今日では、聖書からみことばを説きあかし人々に適用していく働きが求められる。②奉仕—ここでは特に経済的に貧しい信仰者たちに対する配慮や教会を教会として維持運営していく能力。③教える—キリストの福音とそれに基づく生活の仕方を他の信仰者たちに教える能力。これは教会の健全な育成と成長のために、きわめて重要な奉仕である。④勧めをする—これは人々を慰め、励まし、勇気づけるなどの能力。

⑤分け与える—教会と福音宣教のために経済的に援助、協力する賜物。これは惜しまずに、報いを求める下心なく行うことが大切。⑥指導をする—教会において霊的にまた現実的に指導監督する能力。しかもそれは義務的ではなく熱心になされなければならない。⑦慈善を行う—貧しい人を助け、困っている人を援助する賜物。このことも下心なく、いやいやながらではなく、喜んで行われる必要がある。

このように、信仰者はキリストのからだであり、一体とされているのだということをよく自覚して、おののけに分け与えられている賜物をよく知り、それを活用し仕え合っていかなければならない。そのようにしていく時に教会は成長し、この世にあって豊かに実を結び神の栄光を表していくことができるのである。